

スパイラル紙業 株式会社

新旧装置を使い分け
高品質の紙管や紙容器を供給納期
相談
コスト
相談
試作可
小ロット
量産
対応

本社工場の外観

主な事業内容

紙管、紙製品の製造・販売

主な取引先(納入先)

建設機械、薬品、電装部品の
各メーカー、印刷会社、製紙会社

主な製品

紙管、紙容器

業務
内容
巻き取り用芯材や
パッケージとして広く需要

スパイラル紙業は、紙製品やフィルム、テープなどを巻き取るための芯材となる紙管や、商品パッケージなどで用いられる紙容器を製造・販売する。紙管の製造技術であるスパイラル巻きを応用した丸容器を製造できる、日本では数少ないメーカーの一つだ。紙容器はパッケージとして強度が高いという特長があり、化粧品や酒、線香など様々な業界から引き合いがある。

昭和18年に製紙会社の加工部として発足。その後、製紙会社の加工部の機械装置や技術者など、すべての営業権を継承し、昭和32年に会社の設立に至る。平成30年には現住所に本社工場を移転した。

強み
小ロットは長年使用して
いる設備で生産性を確保

令和5年に事業再構築補助金を活用して製筒機や化粧紙貼付機などを導入。切断面にヒゲと呼ばれる糸状の紙が残らないなど品質面で大きな前進となった。

設備投資で品質や生産性向上を図る一方、必要に応じて旧設備も活用している。例えば、紙管をカットするときにはNC切断機を使用するが、業界的に使用することが少なくなった足踏みチ

ューブカッターを使用することもある。旧設備のほうが段取り時間を短縮することができ、かつ次工程への移行が容易なため小ロットの注文には対応しやすいからだ。

「当社では新旧の設備をうまく使い分けることで、品質の確保と納期の短縮を両立させつつ、コストも抑えられる」と魚谷顯一社長は語る。

新案件
顧客要望にこたえて
技術水準や社内意識向上へ

ある顧客から5mを超える紙管の製作依頼があった。それまでは2mまでの対応が限界だったが、大型クレーンの設置のほか、専用台車や荷締機の購入、梱包形態・配送方法の検討を進めることで無事に納品することができた。また、別の顧客から厳しい品質基準が求められた際は、品質管理基準の策定やQC工程表の作成、さらには作業員のヘアネット着用により対応した。

このように、「新しい案件にも積極的に取り組んでいる」と話す魚谷社長。より良いものづくりを行うためには従業員一人ひとりの意識と知識レベルの向上が必須であり、外部研修を中心に教育の充実化を図りたいと意気込む。さらなるレベルアップにより新たな案件に挑み続ける。

社長あいさつ

代表取締役社長
うおたに けんいち
魚谷 顯一さん

当社のスローガンは“信じて託されるプロをめざそう! 顧客の悩みを自分同様に捉え、自己研鑽しよう”です。私自身も含め社員全員でプロをめざし、高付加価値の製品を提供し続けるとともに、社会に貢献できるよう努めます。

主な保有設備

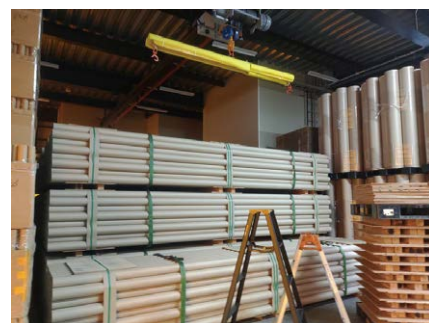
- スパイラル機 IKT-53ほか
生田鉄工製ほか 2台
- NC切断機 IKT-33ほか
生田鉄工製ほか 5台
- 足踏みチューブカッター
生田鉄工製ほか 4台
- ベスター機 (表面紙貼付機)
高間鉄工製ほか 2台
- カール機 高間鉄工製 4台

大阪
06 ISO 14001

住 所 / 〒572-0075
寝屋川市葛原
1-31-14
TEL / 072-801-1230
FAX / 072-801-1239
創 業 / 昭和18年3月
設 立 / 昭和32年3月
資本金 / 1,600万円
従業員 / 28名



化粧品向け丸型パッケージ容器



新たな挑戦だった長さ5mの紙管


<http://www.spiral-paper.co.jp/>